

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「高めよう自分力、開こう未来への扉」をスローガンに、授業や行事・部活動、地域連携など学校におけるあらゆる教育活動を通して、一人ひとりの能力を最大限に高め、次に掲げるめざす学校像の実現に最善を尽くす。

1. 勉強と部活・行事の両方とも本気で取り組む学校（多様性とバランス）
2. 希望する進路を実現する学校（自主性と挑戦する気概）
3. 地域から愛され信頼される学校—開かれた学校（社会性とつながる力）

2 中期的目標

1. 授業の充実と進路の実現

(1) 「わかる授業」「学力がつく授業」「進路に結果を出す授業」に取り組む

- ① 授業アンケートを軸にしたPDCAサイクルの徹底による授業改善を進める。
- ② 教師力（教科指導力+人間力）を向上させる。
—これまでに蓄積してきた授業実践の成果を継承しつつ、ICT機器を活用するなど授業に新風を吹き込む取組みを進める。
—教育センターや他校種との連携、教育産業の活用を図る。
- ③ 「着想・展開・発表する力」を育む取組みを進める。
—アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた能動的な学習法を追求する。
—発表の舞台を作る。（学級読書会、英語プレゼン大会、情報プレゼン発表など）

※学校教育自己診断（生徒）における「授業はわかりやすい」の肯定率（H29 69%）を、2020年度には75%以上をめざす。

(2) 進学実績の向上

- ① 「授業・週末課題・講習」の一体化と充実を図る。
- ② 「自学力」の育成—もっと学びたい生徒のための環境づくりに取り組む。
- ③ 「チーム国公立」の組織化—国公立進学希望者の進路を実現させる。
- ④ 学習指導要領改訂、高大接続改革に向けた準備を進める。

※センター試験受験者数（H29・156名→2020年度・170名）、国公立現役合格者（H29・16名→2020年度・20名）、
関関同立現役合格者（H29・86名→2020年度・110名）をめざす。

2. 自主自律の精神の涵養

(1) 「自主・自律の力」を育成するとともに、「つながることの大切さ」を実感させる。

- ① 勉強と部活・行事の両立 —学習・生活習慣を確立させる。
- ② 生徒会活動の自主運営 —学校祭等の自主企画・運営を行い、生徒に集団活動でのみ味わえる成就感、達成感を体験させる。
- ③ 国際理解の推進 —海外修学旅行、国際交流事業に取り組む。

※学校教育自己診断（生徒）における「生徒会活動、ホームルーム活動は活発である」の肯定率（H29 74%）を、2020年度には80%以上をめざす。

(2) 教育相談体制の充実

- ① SCを積極的に活用し、本人の希望を大切にしながら情報の共有化を図り、学校全体で支えていく体制を充実させる。

※学校教育自己診断（生徒）における「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定率（H29 76%）を、2020年度には82%以上をめざす。

3. 学校力を高める機能的な組織運営と地域連携

(1) 機能的な組織運営と学校情報の積極的発信

- ① チームワーク・フットワーク・ネットワークを生かした機能的な校務運営に務める。
- ② ミドル・アップダウン・マネジメントを有効に機能させる。また、積極的なOJTを通じて次代を担うリーダーの育成に努める。
- ③ 学校説明会、HPなどを活用して、積極的な情報発信に努める。
- ④ 学校運営協議会、PTA、同窓会との連携を強化する。

※学校教育自己診断（教職員）「学校行事や校務分掌等において、PDCAが実施されている」の肯定率（H29 70%）を2020年度には85%以上をめざす。

(2) 地域連携の推進

- ① 早朝あいさつ運動、地域清掃、図書館活動、地区文化祭などへの積極的な参加

※学校教育自己診断（生徒）「授業や部活動などで、保護者や地域の人々と関わる機会がある」の肯定率（H29 49%）を2020年度には55%以上をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>保護者の回収率が前年度より高く（91→93%）なり、19問中15問において昨年度と同等もしくはそれ以上の肯定率となった。「本校に進学させてよかった」が、92%と依然として高い。生徒は31問中13問において3年連続で肯定率が上昇。「学校の規則を守っている」が95%と極めて高い。</p> <p>【学習指導等】 「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある（生徒）」は、64→71%に増加したが、「授業はわかりやすい（生徒）」は、69→68%に止まっている。「1日1時間以上家庭で学習している（保護者）」は、52→45%と大きく低下した。さらなる授業改善に取り組むとともに、週末課題等、家庭学習のあり方を再点検したい。</p> <p>【生徒指導等】 「悩みや相談に親身に応じてくれる先生が多い（生徒）」76→77%、「担任以外の先生にも気軽に相談できる（生徒）」65→67%、「教育相談体制が整備されている（教職員）」80→88%に増加した。教職員間でしっかり情報共有を行い、引き続き安全で安心な学校づくりに取り組んでいく。</p> <p>【学校運営】 「生徒の実態に応じた研修が実施されている（教職員）」は、74→82%に増加したが、「教職員間（分掌・学年・教科等）で、連絡・報告・相談が十分に行われている（教職員）」は、80→68%に低下した。フォローアップを発揮して教職員間の連携強化に取り組んでいきたい。</p>	<p>第1回（6/26） ○授業見学 ・授業は落ち着いて学習できている。「文武両道」の自覚を持って一層励んでほしい。 ○H30学校経営計画について ・私立大学の定員厳格化の影響もあり、進路結果が厳しくなることが予想されるが、現役で合格できるよう取組みを進めていてもらいたい。大学入試制度が変わるが、特に2年生は、新旧どちらにも対応できるように配慮して指導してもらいたい。</p> <p>第2回（9/8） ○文化祭見学 ・来校者も多く、活気があってよい。PTAも学年ごとにバザーに取り組み、保護者の参加者数が多いのに驚いた。 ○H30学校経営計画、進捗状況について ・順調に取り組みが進められている。進路については、国公立大学が多いか少ないかではなく、生徒の第1希望をかなえることが肝要である。個々の進路希望実現に向けて取組みを進めていてもらいたい。</p> <p>第3回（1/29） ○H30学校経営計画、自己評価について ・概ね達成している。新学習指導要領への対応を進めていく中で、教職員のコミュニケーションを深め、進路につながる学習習慣の確立、遅刻数の改善等に努めていてもらいたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 授業の充実と進路の実現	(1)「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果を出す授業」に取り組む (2)進学実績の向上	(1) ア・進路希望の実現につながる組織的な授業改善 5月 個人・教科による授業改善テーマ設定 7月 第1回授業アンケートの実施 8月 個人・教科にフィードバック 9月 個人・教科から振り返りシートの提出 11月 公開研究授業 12月 第2回授業アンケートの実施 1月 個人・教科フィードバック 1月 個人・教科から振り返りシートの提出 2月 成果発表(国・数・英・社・理他) ・教科の枠を超えたベテラン教員と初任者等の授業交流を積極的に行い、ベテランの指導方法のノウハウを継承するとともに、若手の持つ最新の知識やスキルを交換し、学校全体の授業力の向上をめざす。 イ・ICT機器の環境整備と利用の促進を図る。 ウ・他校種との連携や教育産業の活用を図る。 エ・英語プレゼン大会を1年で実施。情報プレゼン発表を充実させ、ビジネスアイデア甲子園入賞をめざす。 (2) ア・「授業・週末課題・講習」の一体化と充実を図るとともに、家庭学習の時間を増やす。 イ・「チーム国公立」の年間活動計画の作成。 ・進学実績の向上を図る。 ウ・学習指導要領改訂、高大接続改革に向けた準備を進める。	(1) ア・生徒自己診断「わかりやすい授業」69→71% ・授業アンケート質問9(知識や技能が身についた)学校平均 3.15→3.17 ・生徒自己診断「教え方に工夫」63→65% 「発表する機会」64→66% イ・PTが作成した整備プランと研修の内容 ウ・地元の中学校と連携し、授業見学を2回実施 エ・英語プレゼン、情報プレゼンの取組み内容 (2) ア・週末課題、講習の実施状況 ・保護者自己診断「1時間以上の家庭学習」52→55% イ・チーム国公立の学年別活動内容と参加者数 ・センター受験者(156→160名以上) 国公立現役合格者(16→17名以上) 関関同立現役合格者(86→90名以上) ウ・各取組みの内容(英検他の受験者数等)	(1) ア・「わかりやすい授業」68%に止まる。(△) ・授業アンケート質問9(知識や技能が身についた)学校平均 3.15→3.17(○) ・授業アンケート9問中6問で、学校平均が昨年を上回る。(◎) ・生徒自己診断「教え方に工夫」60%に止まる。(△) 「発表する機会」64→71%に増。(◎) イ・PTが作成した画像転送システム案は、学校説明会時に応用でき、役立った。(○) ウ・地元の中学校2校に、春と秋、のべ4回若手教員を授業見学に派遣できた。(◎) エ・1年英語表現Iを習熟度別に2展開。プレゼン大会で成果を上げる。情報はビジネスアイデア甲子園で学校賞を受賞。(○) (2) ア・1,2年で年間17回週末課題(国数英から2教科ずつ)に取り組む。提出率は90%以上。(○) ・3年の講習は16講座(早朝、放課後等)を開講。うち2講座は、同一内容を2日間にわたり実施。生徒の選択の幅を広げる。(○) ・「1時間以上の家庭学習」52→45%に減。1年が32%と低いのが課題。(△) イ・チーム国公立、学年別に立ち上げる。(○) ・センター受験者 156→150(△) 国公立現役合格 16→8(△) 関関同立現役合格 86→69(△) ウ・新たに英語学力調査の校内受験機会を設けたが、希望者は少数。行事等と重なり日程が課題。(△)
2 自主自律の精神の涵養	(1)「自主・自律の力」を育成するとともに、「つながることの大切さ」を実感させる (2)教育相談体制の充実	(1) ア・生指部と学年団の連携により、朝の登校指導を強化し、遅刻を減らす。 イ・生徒会活動の自主運営に取り組む。(学校祭等の行事) ・各クラブで、ノークラブデー予定表を作成し、計画的に取り組む。 ウ・海外修学旅行(台湾)、国際交流事業の実施。 (2) ア・学年団会議等で生徒の情報交換を密にし、SCとの積極的な連携を図る。	(1) ア・遅刻総数の5%削減 イ・生徒自己診断「生徒会・HR活動が活発である」74→76% ウ・修学旅行生徒満足度80%以上に (2) ア・生徒自己診断「親身になって応じてくれる先生が多い」76→78%	(1) ア・遅刻総数 2201→2155(△) イ・「生徒会・HR活動が活発である」74→76%に(○) ・ノークラブデー予定表を3か月ごとに作成。(○) ・「部活動に積極的に取り組んでいる(生徒)」77→81%、「部活動指導に満足している(保護者)」75→76%に。(○) ウ・台湾修学旅行の生徒満足度88→91%に。(◎) ・アメリカの高校と相互訪問、交流を深める。(◎) (2) ア・「親身になって応じてくれる先生が多い」77%に微増。(△) ・スーパーバイザーによる教職員研修を実施。(○)
3 学校力を高める機能的な組織運営と地域連携	(1)機能的な組織運営と学校情報の積極的発信 (2)地域連携の推進	(1) ア・学年団と分掌等の連携強化を図る。 ・前年度の総括に基づき、「PDCA」サイクルを意識して回していく。 イ・OJTを重視し、若手教員の育成を図る。 -「初任研」、「インターメディアイトセミナー」、「10年研」を連動させる -広報活動への積極的な参画 ウ・若手教員の経営参画意識を高めるための座談会を開催する。 エ・HPの内容を充実させ、アクセス数の更なる増加をめざす。 オ・PTA、同窓会との連携を強め、創立100周年(2023年)に向けた準備を進める。 (2) ア・地域活動への積極的参加 早朝あいさつ運動、地域清掃、図書館活動、地区文化祭などの取組みに参加し、地域の活性化に貢献する。	(1) ア・教職員自己診断「PDCA」70→75% 「情報交換」80→85% イ・各OJTの取組み人数、内容 ウ・座談会を3回開催 エ・HPの内容充実とアクセス数の増加 オ・記念事業の概要案の策定 (2) ア・生徒自己診断「授業や部活動で保護者や地域の人々に関わる機会がある」49→52%	(1) ア・「PDCA」72%に微増。「情報交換」80→68%に減。(△) ・「生徒の実態に応じた教職員研修が計画的に実施されている」74→82%に。(◎) イ・11月を公開授業月間とし、すべての教科で授業を公開。「初任研」「10年研」該当者の研究授業を実施。(○) ・2月に授業の成果発表会を実施(2年目2人)(○) ・「中学校に多くの情報を提供し、連携が図られている(教職員)」72→88%に。(◎) ウ・10年研該当者を座長とし、座談会を4回開催、生徒指導、学校行事等について意見交換。(○) エ・HPアクセス数約17.4万回。「ホームページをみたことがある(保護者)」85→88%(○) オ・準備委員会を発足。概要案を策定中。(○) (2) ア・「授業や部活動で保護者や地域の人々に関わる機会がある」48%に止まる。(△)